

日本都市社会学会ニュース

NO. 121 (2022. 4. 1)

事務局：〒825-8585 福岡県田川市伊田 4395

福岡県立大学人間社会学部公共社会学科 堤圭史郎研究室

e-mail: usocio @ urbansocio.sakura.ne.jp TEL : 0947-42-1718

(振替口座 : 00140-4-703976) URL : <http://urbansocio.sakura.ne.jp/>

例会のご案内

このたび、通常の大会とは別に、例会を実施することになりました。大会のテーマ部会よりは少し肩の力を抜いた議論の場として、活発な意見交換や研究展開を考えることを意図しています。

テーマは、「倉沢都市社会学の批判的継承と展開」です。日本の都市社会学の黎明期を担ってこられた倉沢進先生の研究は、コミュニティ論、都市的生活様式論、社会地図に関わる研究、市民意識論など多岐にわたります。その研究を批判的に継承しつつ、現在どのような研究が行われており、そしてこれからどのような展開が考えうるのか、都市社会学の現在とこれからを考える機会になればと思います。その趣旨を捉え、報告者として、浅川達人会員と上野淳子会員、コメンテーターとして、中筋直哉会員と松尾浩一郎会員をお招きしています。

日時は、6月19日(日) 13時半～16時です。会場は、東京・早稲田大学の大隈記念タワー内会議室を予定しています。基本的に対面形式で実施予定ですが、オンラインでの同時配信も行います。オンラインでの接続先は、前日までに、事務局よりメールにてZoomのURLをお送りします。今後の疫病の状況によっては全面的にオンライン開催の可能性もあり、こうした変更についてもメールおよび学会のホームページにてお知らせします。なお、この件について問い合わせ等がある場合は、山口のメールアドレス ykeiko@u-gakugei.ac.jp までお願いします([at]を@に変えて送信してください)。

お若い会員の方を含め、多くの会員みなさまのご参加を歓迎いたします。

(企画担当委員 松蘭祐子・山口恵子)

日本都市社会学会 第40回大会

歓迎の言葉

原田 謙 (実践女子大学)

日本都市社会学会第40回大会は、2022年9月13日(火)、14日(水)の日程で、実践女子大学・渋谷キャンパスで開催致します。

実践女子学園の学祖・下田歌子は、女性の地位向上を目的として、1899年、現在の大学の前身である実践女学校と女子工芸学校を設立しました。以来、本学園は「女性が社会を変える、世界を変える」という建学の精神に則り、約120年の歴史を刻んできました。2014年からは「郊外」の日野キャンパスと「都心」の渋谷キャンパスの2校地での教育・研究活動を展開しており、今回は渋谷キャンパス・創立120周年記念館に皆様をお迎え致します。

今大会では、「コロナ禍における都市空間と排除」、「移動する人々と社会」、そして「ジェンダーから都市を問う」企画が立てられており、変わり続けるまち・渋谷で、活発な議論が展開されることを楽しみにしております。開催方法は、感染状況が収束したなかで学生スタッフとともに対面で実施したいところですが、やむを得ずオンラインでの開催になった場合でも企画委員の先生方にご助力いただきながら充実した大会になるように尽力致します。

皆様のご健康を祈念するとともに、本大会へのご参加をよろしくお願い申し上げます。

大会次第

期間：2022年9月13日(火)、14日(水)

会場：開催方法(対面での実施か、オンラインでの実施か)は、6月中に学会として判断する予定です。

大会企画（企画委員会報告）

企画委員会では、2021年12月12日（日）に第3回委員会を、2022年2月7日（月）に第4回委員会を、Zoomミーティングにて行いました。主に大会や例会の実施方法について検討しました。

大会の開催形態については、基本的に対面で実施し、シンポジウムのみをオンラインの同時配信も行うこととして、準備を進めています。企画としては、シンポジウムは、「コロナ禍における都市空間と排除」というテーマにて、大会2日目の午後に予定しています。これは昨年のテーマ報告部会の流れを受けて、より空間と排除に絞ったテーマ設定のもとに議論を予定しています。テーマ部会は、「移動する人々と社会——地域移動をめぐって」というテーマで、1日目の午後に予定しています。近年も盛んに議論がされているモビリティ、とりわけ地域移動に焦点が当てられます。報告者は公募となります。ラウンドテーブルは、「ジェンダーから都市を問う」というテーマで、1日目の午後です。これまで本学会でジェンダーが直接のテーマとして掲げられることが少なく、ラウンドテーブルで広く議論ができればと思います。こちらにも報告者は公募されます。これらの公募は、広く会員のみなさまに報告の機会を開きたい、新しい研究や思想と出会いたい、などの思いがありますので、大学院生などの若手の研究者の方も含めて、ご応募をお待ちしています。

疫病の予測が難しい状況ではありますが、プログラム上でも、懇親会は実施しない、昼食を共有する機会を設けない、などの工夫をし、対面での実施を模索しています。今後、変更の可能性もありますが、ここ数年のオンライン開催の経験も生かして、どのような形であったとしても活発な大会となるように準備していきたいと思います。また、今回からすべての報告の受付を Google Form で行うことになりました。便利な道具も積極的に使い、組織・運営のよりよい方向での変革は積極的に進めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（企画委員会委員長 山口恵子）

【ラウンドテーブル】 ジェンダーから都市を問う

【話題提供者募集】

【趣旨】

昨年を除くここ数年の大会では、会員、特に若手会員の研究交流と多様な論点を創発的に生み出すことを目的として、「ラウンドテーブル」を企画してきました。今大会では「ジェンダーから都市を問う」（下記参照）をテーマに、再び開催の運びとなりました。

論点提示のため、テーマに関して5分程度の「話題提供」をしていただける会員を募集します。レジュメや報告資料の準備は基本的に不要ですが、必要に応じてパワーポイント、紙媒体の資料等を提示していただくことはかまいません。特に若手研究者の方に話題を提供していただき、世代を超えて意見・情報交換できればと考えています。

なお、自由報告部会に登壇予定の方も話題提供者になれることとします。ただし、自由報告部会での報告と同じ内容のトピックでのエントリーはお控えください。話題提供者には大会終了後、その内容を600～800字程度にまとめていただき、それを大会報告号のニュースレター（例年11月に発行）に掲載する予定です。

応募方法：2022年6月3日（金曜日）18時締め切り。氏名、所属、Eメールアドレス、発言予定のトピック等を以下のフォームにご記入ください。

申し込み先：日本都市社会学会第40回大会報告申し込みのフォーム

<https://forms.gle/R1CDj4a6y4Kq4RKE6>



テーマ「ジェンダーから都市を問う」（大会1日目〔9月13日〕）

今年度のラウンドテーブルではジェンダーに焦点を当てる。都市研究においてジェンダーは不可分であるはずだが、これまで日本都市社会学会では主要なテーマ、トピックとしてあまり取り扱われてこなかった。日本の都市社会学においてジェンダーを取り扱う研究が少数であったのはなぜだろうか。ジェンダーに関する学術的、社会的情勢はここ10数年でも変化しているが、現在の研究者、特に若手研究者はジェンダーの観点から見た都市に関わる研究課題をどのように捉えているだろうか。学術的・社会的情勢が変化する中、社会学が向き合うべき論点とは何か。本ラウンドテーブルは以上のような問題意識に基づいており、それぞれの問題意識、問題関心について、形式ばらずに気軽な形で報告、議論してもら

うよう、会員に呼びかけたい。問題意識を共有する場としても位置付けており、学術的な展開・意義・展望は必ずしも必要ない。ぜひ積極的な応募をお待ちしています。

(企画担当委員 金善美・仙波希望・山本薫子)

【テーマ部会】 移動する人々と社会—地域移動をめぐって

【報告者募集】

【趣旨】

地域間の人口移動にまつわる研究の蓄積が増えつつある。都心回帰、東京一極集中、UJI ターン等への関心にはじまり、関係人口、ライフスタイル移住など多様な方向への研究の展開が見られる。また、進学機会の格差、地元志向など、社会移動やキャリア研究に関連する移動（非移動）の調査研究も様々に取り組まれている。モビリティというキーワードへの注目、国境を越える移動の諸側面、災害時のような強制的な移動、コロナ禍以降の転出入統計の変化の兆しなども、関係の深い現象と言える。

これらの背景には、ライフコースをめぐる人々の選択や、都市生活・地域社会に対する社会意識の影響が考えられ、人口学・地理学とは別の、社会学としての知見を積み上げる必要性が考えられる。コロナ後の都市のあり方を考えるための基礎研究になる可能性もある。本テーマ部会では、広い意味で人の移動に関連するような研究報告を会員から募り、定住を前提としない社会やコミュニティのあり方をめぐる知見の共有を目指したい。

本部会は大会 1 日目 [9 月 13 日] に開催される。シンポジウムのような形式ではなく、テーマについての会員の多様な報告を受けて、最後に討論を行う形とする。各報告の時間は自由報告部会に準ずる予定である。間口を広げた企画となることを狙っており、多くの会員の応募を期待したい。

- ・報告申し込みおよび報告要旨提出の締め切りは2022 年 6 月 3 日（金）18 時です。次ページの「自由報告」と同じ要領で、日本都市社会学会第 40 回大会報告申し込みのフォームからお申し込みください。
- ・希望者の人数によっては、自由報告に回っていただくことがあります。
- ・本件に関するお問い合わせはテーマ部会企画委員の西野淑美 (y_nishino[at]toyo.jp) までお願いいたします ([at]を@に変えて送信してください)。

(企画担当委員 西野淑美・山本かほり・申恵媛)

【シンポジウム】 コロナ禍における都市空間と排除

【趣旨】

新型コロナウイルスのパンデミックが始まってから 2 年余りが経過した。このウィルスの感染拡大は、私たちが生きる社会—とくに都市社会の脆弱性を突くものである。異質な人々が物理的に近接して暮らすと言う都市の社会学的な性質は、不幸にも感染の拡大にとって都合の良い環境を提供している。これまで何度も繰り返されている感染の「波」は、東京や大阪を始めとした大都市圏において医療のひっ迫をもたらしてきた。

2021 年度の大会ではテーマ部会「コロナと都市」が企画されたが、4 本の報告は都市に生きる人々の社会的活動（寄せ場、ボランティア、イベント、ミニコミ）にウィルスの拡大がどのような影響を与えているかを明らかにするものであった。この前年度のテーマ部会を受けて、2022 年度大会のシンポジウムにおいても新型コロナウイルスの感染拡大をテーマとすることになった。時間の経過とともにパンデミックの社会的影響も明らかになっており、このタイミングで都市社会学の視点からパンデミックをいかに捉えるかを問うことは有意義であると考えられる。

本シンポジウムでは、新型コロナウイルスの感染拡大を都市空間という視点から捉えるとともに、貧困・不安定層やマイノリティなどが新型コロナウイルスの感染拡大にどのような影響を受けているのかという点に焦点を当てたい。新型コロナウイルスのパンデミックは現代都市のどのような脆弱性を浮き彫りにしたのか？パンデミックは貧困・不安定層やマイノリティなどにどのようなネガティブな影響を与えたのか？そして、コロナ禍という条件においてどのような支援が可能なのか？

都市社会学においては都市下層地域や外国人集住地域を対象とした研究蓄積が豊富であり、地域での支援活動に関わりを持っている研究者も少なくない。本シンポジウムではこの2年余りの動向を整理するとともに、都市社会学の蓄積を踏まえて上に挙げたような問いにどのように取り組むかを考えたい。

(企画担当委員 伊藤泰郎・川野英二・木田勇輔・山本崇記)

自由報告の募集

【報告者募集】

第40回大会の自由報告を募集します。どうぞ奮ってお申し込みください。なお、自由報告の申し込みと同時に報告要旨を提出していただき、7月発行の「学会ニュース」(第122号)に自由報告要旨を掲載することになっております。自由報告を希望される会員は、下記の要領で、自由報告の申し込みと自由報告要旨の提出を同時に行ってください。提出後の内容の修正は受け付けません。

申し込み方法: 2022年6月3日(金曜日)18時締め切り。メールアドレス、氏名および所属(共同報告の場合は登壇者に○)、報告タイトル(仮題は不可)、報告要旨(1,000字以内。50字×20行)、発表時に使用する機器等を以下のフォームにご記入ください。

申し込み先: 日本都市社会学会第40回大会報告申し込みのフォーム

<https://forms.gle/R1CDj4a6y4Kq4RKE6>



申し込み締め切りを過ぎたものについては、一切受け付けないことになっています。メンテナンスなどのためにサーバーが一時不通になることもありますので、くれぐれも余裕を持って申し込みされるようお願いいたします。

注意事項(必ずお守りください!)

- 共同報告の場合、登壇者は日本都市社会学会の会員に限りです。なお、未入会の方が報告を希望される場合は、申し込みを行う前に、入会の手続きをお済ませください。入会手続きについては、学会ホームページをご覧ください。
- 報告要旨は、「報告の要旨」を会員に事前にお知らせすることを目的としておりますので、図表は入れ込まず、文章のみで作成してください(学会ニュース1ページに2つの報告要旨を掲載する予定です)。したがって、要旨が50字×20行に納まるか、予めご確認いただきますようお願いいたします。
- この要領に反し、本文が1行50字で20行を超えていたり、図表が入っていたりする場合は、数日以内で訂正をお願いすることになります。また、期限内に訂正されない場合は、報告を放棄されたものとみなしますので、ご注意ください。

(事務局担当理事 堤圭史郎)

会員の皆さまへのお知らせ

コロナ禍にともなう院生会員・常勤職にない会員の学会費減額について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、大学院生や常勤職にない会員が経済状態の悪化によって研究継続が困難になる可能性に配慮し、理事会では2022年度の学会費について減額を決定いたしました。減額を希望される方は申し込みフォームからお申し込みください。

申し込みフォーム: <https://forms.gle/CFpuf2gQddZtyQaE8>

対象: 学生会員(日本学術振興会特別研究員は除く)および常勤職にない会員(退職者を含む)

金額: 一般会員 6,500円を4,000円に減額。学生会員 4,000円を2,000円に減額。

申込締め切り: 2022年12月末

入会金および2021年度以前の年会費は減額の対象になっていません。



(事務局担当理事 堤圭史郎)

将来構想基金による国際学会参加等支援の選考結果

2021 年度の将来構想基金による国際学会参加等支援の募集（2022 年 1 月末申し込み締め切り）を行いました。応募がございませんでした。2022 年 2 月 15 日開催の第 3 回理事会で、次年度も引き続き募集することが決定いたしました。2022 年度の将来構想基金による国際学会参加等支援の募集は 11 月発行のニュースに掲載予定です。

（事務局担当理事 堤圭史郎）

理事会報告

2021-22 年度第 3 回理事会が 2022 年 2 月 15 日（日）午前 10 時より Zoom にて開催されました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえて、第 40 回大会の開催方法について審議されました。また、第 40 回大会の企画全体の準備状況（企画委員会報告）、年報 40 号の編集状況（編集委員会報告）等々について、各委員長・担当理事より報告がありました。そして、年報への投稿方法の変更、コロナ禍にともなう院生会員・常勤職にない会員の学会費減額、将来構想基金による国際学会参加支援等について審議がおこなわれ、それぞれ本ニュース掲載の内容のとおりとすることが決定されました。その他、学会ニュース 121 号の内容、入退会の承認について、それぞれ審議されました。

（事務局担当理事 堤圭史郎）

編集委員会報告

- 『日本都市社会学会年報』第 40 号の編集が進んでいます。特集は「日本の都市と『近隣効果』」を予定しています。
- J-stage (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jpasurban/-char/ja/>) で『日本都市社会学会年報』第 38 号（2020 年発行）までが閲覧できます。学会 WEB サイトにもリンクが貼られていますので、ご利用ください。

（編集委員会委員長 五十嵐泰正）

『日本都市社会学会年報』41 号 自由投稿論文・研究ノートの募集について 【募集】

編集委員会では、『日本都市社会学会年報』第 41 号（2023 年 9 月発行予定）に掲載する「自由投稿論文」「研究ノート」「書評リプライ」の原稿を募集します。会員諸氏の、奮っての投稿をお待ちしています。投稿を希望される方は、『年報 39 号』（2021 年発行）に掲載されている投稿規定および執筆要項を遵守した原稿を作成のうえ、2022 年 11 月 30 日までに、下記の編集委員会事務局宛に送付してください。投稿資格のないもの、投稿期限を過ぎたものは一切受け付けられませんので、くれぐれもご注意ください。なお、編集作業のオンライン化に伴い、41 号よりメールに原稿の電子ファイルを添付する形で投稿となる予定です（これに伴い、投稿規定第 3 条は改正いたします）。新しい投稿方法の詳細は現在理事会にて検討中ですが、2022 年 7 月発行予定の次号のニュースレターにて告知いたしますので、ご確認ください。

（送付先）五十嵐泰正（筑波大学）研究室 日本都市社会学会編集委員会事務局

E-mail : igarashi.yasumasa.fn[at]u.tsukuba.ac.jp （[at]を@に変えて送信してください）。

（編集委員会委員長 五十嵐泰正）

国際交流委員会報告

韓国地域社会学会大会は、2022 年 6 月 11 日（土）、ソウル大学（ソウル特別市冠岳区）にて行われます。現在、学会の開催形式はオフライン開催を予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン形式の開催への変更も検討中です。

2022 年度は、本学会から韓国地域社会学会へ報告者が参加する番です。今回の韓国地域社会学会大会テーマは、韓国の「新政府と地方の課題」です。韓日合同セッションのほうは、都市、地域にかかわる主題なら報告内容は自由です。本学会からの報告は 2 名～3 名が可能です。

【応募方法】

締め切り：2022年4月25日（月）23時必着

申し込み先：国際交流委員会・文貞實（moon[at]toyo.jp）（[at]を@に変えて送信してください）。

件名：韓日合同セッションの申し込み

申し込み内容：

- 1) 報告者氏名・所属（共同報告の場合は登壇者に○）
- 2) 報告タイトル（仮タイトルは不可）
- 3) 報告要旨（40字×20行 800字以内）
- 4) 発表言語
英語の場合（要旨は英語）
日本語の場合（要旨は日本語） *報告時に通訳を予定
- 5) 発表時に使用する機器
- 6) 連絡先（E-mail アドレス）

報告希望者は文までご連絡ください。お待ちしております。

（国際交流委員会委員長 文貞實）

社会学系コンソーシアム報告

2022年1月29日（土）に、Zoomにて社会学系コンソーシアムの第14回評議員会が、Zoom ウェビナーにて第14回シンポジウム「いま「戦争」を考える——社会学・社会福祉学の視座から」がそれぞれ開催されました。評議員会（31学会・62名の評議員で構成）では、2021年度の事業報告・決算報告、2022年度の事業計画・予算案に関する審議が行われ、いずれも異議なく承認されました。また、新理事・監事の選挙が行われ、本学会から有末賢常任理事が理事に選ばれました。

（社会学系コンソーシアム担当理事 堤圭史郎）

会員異動

新入会員（2022年2月15日理事会において、2022年4月1日付入会を承認）

＜東京都地区＞

國府 久郎（早稲田大学商学大学院）

退 会（2022年2月15日理事会承認）

＜東日本地区＞

佐藤 克繁

＜東京都地区＞

石田 光規

＜中部・近畿地区＞

瀧本 佳史

会員資格の喪失

神山 育美、瀬古 武志、西澤 晃彦

ご逝去

野沢 肇

（事務局担当理事 堤圭史郎）

学会事務局からのお知らせ

■ 2022 年度 会費納入のお願い

学会費の振替用紙を同封させていただきました。2021 年度会費を納入していただきました会員の皆様、2022 年度（2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）の会費もできるだけ早めの納入をお願い致します。オンライン入金もできます。ゆうちょダイレクトの QR コードをご活用ください。



ゆうちょダイレクトログイン：https://direct.jp-bank.japanpost.jp/tp1web/U010101WAK.do?link_id=ycDctLgn

年会費は一般会員が 6,500 円、学生会員が 4,000 円となっております。本ニュース p.4 に掲載の通り、コロナ禍にともなう院生会員・常勤職にない会員の学会費減額を行っておりますので、該当する方はご利用ください。また、外国籍会員の場合、年会費減額の措置が適用される場合もあります。詳しくは、学会のホームページをご参照ください。

なお、2021 年度までの学会費をまだ納入されていない会員の皆様は、お早めに納入くださいますようお願い申し上げます。極力、全額の納入をお願いいたしますが、単年度分の振込につきましてもお受けいたしますので、是非とも納入してくださいますよう重ねてお願い申し上げます。継続して 3 年以上会費を滞納した場合、原則として会員の資格を失うこととなりますので（学会規約 13 条）、その旨ご注意ください。

本学会が利用しておりますゆうちょ銀行は、全国の金融機関（一部を除く）との相互振込が可能です。他の金融機関から本学会の口座に振り込む場合は、以下の店名・預金種類・口座番号・受取人名をご指定ください。

銀行名..... ゆうちょ銀行

預金種類..... 当座

金融機関コード..... 9900

口座番号..... 0703976

店番..... 019

受取人名..... ニホントシシャカイガッカイ

店名（カナ）..... 〇一九（ゼロイチキウ店）

■ ご所属先等変更のご連絡のお願い

新年度より、ご所属先やご住所等が変更となる会員の皆様もおられるかと思えます。その場合は、事務局へメールにてご連絡くださいますよう、くれぐれもよろしくお願い申し上げます。

（事務局担当理事 堤圭史郎）